

第34回 抗議デモ・学習会

5月13日(土)

- 抗議デモ 午後1:30集合 1:50出発 烏山区民センター前広場
- 学習会 午後2:30開会 烏山区民センターホール

講演 **「彼らはなぜテロに走ったのか」**
— 地下鉄サリン事件実行犯の心の軌跡 —

オウム真理教によるサリン事件は、人類史的な犯罪であり、これを身近に経験した者にはこれを後世に語り継ぐ義務がある。この講演では実行犯たちの手記や関係者の証言により、わたしたちがこのおぞましい事件にどのように向き合うべきか、また世界各地でテロが頻発する今日、オウム事件の持つ意味を考えたい。

講師：川島堅二氏

手話通訳があります



川島堅二氏の略歴

1958年東京生まれ。東京大学大学院修了。文学博士。専門は宗教学・宗教思想。恵泉女学園大学元学長。オウム事件を契機に研究者や法曹関係者、心理カウンセラーやカルト被害者や脱会者らによって結成された日本脱カルト協会に草創期から関わり現在は同協会理事。共著に『大学のカルト対策』（北海道大学出版）その他、カルト宗教についての研究論文多数。

主催：烏山地域オウム真理教対策住民協議会

後援：世田谷区

パンフ「こんな勧誘にご用心」の配布

オウム真理教を知らない若い世代が増える中、住民協議会では、毎年、区内大学の新生向けに、「日本脱カルト協会」が発行しているカルトの勧誘を防ぐためのパンフレット「こんな勧誘にご用心」を購入し、配布しています。今年も8大学から約1万2千部の申し込みがありました。パンフレットは、新生に配布できるよう各大学にお届けしました。

「こんな勧誘にご用心」申し込み状況(平成28年度)

大学名	希望枚数
東京医療保健大学	500
国士舘大学	3,500
昭和女子大学	1,800
成城大学	1,750
東京農業大学	2,500
日本大学商学部	1,500
日本大学文理学部	500
東京都市大学	100
合計	12,150



抗議デモ・学習会へのお誘い

一歩踏み出してください

オウム真理教が猛毒サリンを使用して、地下鉄・松本両サリン事件を起こして、今年で22年目となります。死者は21名、負傷者は約6500名を数えました。この国の事件史上で最も凶悪で凄惨なテロ事件として未だ記憶の片隅から消えることはありません。そして事件を起こした後継団体が、私たちの住むこの地域に居住して17年目となります。「解散・解体」を叫びながら、私たちは色々な経験や挫折を繰り返し、その度に学び結束を強くしてきました。

しかし17年の年月は、新たな担い手を必要としています。一緒に活動とまではいいません。まずは抗議デモで共に歩き、学習会で講師の話を聞いてください。オウム真理教後継団体(ひかりの輪・アレフ)のことや、様々な疑問にも答えます。まずは一歩踏み出してみましよう。

オウム
対策
住民
協議
会
三
月
二
日

烏山地域
オウム真理教対策
住民協議会

地下鉄サリン事件から22年の集いに参加して 寄稿

3月19日(日)日本教育会館に於いて開催された「地下鉄サリン事件から22年の集い」に、烏山地域から3名で参加した。今回集いで改めて心に残ったのは、オウム真理教に反対する活動の原点は、被害者に寄り添い続けることが原点だと再認識したことだ。サリン事件から22年を経過した今でも、被害者の病状は好転せず、かえって重篤になっている現状もある。そのことを語ったのは、NHK大阪放送局広報部副部長の藤田浩之氏であった。記者時代地下鉄サリン事件に衝撃を受けた藤田氏は「被害者の声が伝わることの難しさがあった」「被害者の記憶、被害者全体の調査がされていないとの気持ちが強くあった」と語り、被害者に寄り添う決意をした。今回被害者・家族の協力によるアンケートでは、被害者の多くが、目の異常、体のだるさ、めまいや頭痛が日常的にあると回答した。生活や家族関係の変化では、生活リズムが変わり、趣味や楽しみの時間、外出機会が減り、家族が精神的に不安定になった。人間関係の変化では、周囲に心身のつらさを理解されなかった。傷つくことを言われたり、職場の人間関係がぎくしゃくした。友人と会わなくなったと言う回答もあった。阪神淡路大震災で救出にあたった消防士よりサリン被害者・家族の方がPTSDの症状に陥る確率が高いとの結果は事件の傷の深さが伺えた。被害に遭った寝たきりの妹、浅川幸子さんの介護をする兄が「幸子は政治に携わる人の身代わりにされた」との言葉には、被害者の苛立ち

が痛く感じとれた。そして藤田氏は「忘れない、それが時には大きな力を持つ」との言葉で結んだ。聖路加国際病院副院長石松伸一氏は、事件当日の状況を医師の立場から今後の教訓として語られた。事件当日は何が起きたのか分からなかったが、外来も手術もすべて中止し、負傷者の治療にあたった。普段の防災訓練が生かされ、コミュニケーションや情報伝達がうまくいった。しかし礼拝堂まで使用した治療は換気が悪く、二次感染を引き起こしたこと。後遺症の治療には国がかわる重要性。男性は背広などのポケットの中で本人確認ができるが、女性はバッグを手放すと本人確認に手間取る、など今後に生かされる講演だった。最後に高橋シズエ氏より、オウム真理教事件死刑囚の話聞く機会を持ちたいと述べると共に、今回は10人以上の大学生の参加と歓迎し、この事件を若者に語り続けようとの訴えがあり閉会した。



オウム真理教を規制する観察処分期間更新の署名にご協力を

オウム真理教後継団体(ひかりの輪・アレフ)に施行されている観察処分は、来年1月末日が見直しの期限となります。もし観察処分の終了が決定すると、アレフ・ひかりの輪が、再び危険な団体へ変貌するとの可能性を考え、これまで5回にわたり住民の皆さまの協力で、期間更新の署名活動を行ってきました。今年も、4月8日のリサイクルバザーの日をもって6回目の署名活動を開始することとなりました。署名用紙は当日もお配りしますが、5月16日発行の住民協議会ニュースの裏面にも掲載いたしますので、家族や友人などにも協力をお願いしてください。尚、署名用紙は住民協議会に取りにきていただいても結構ですので(電話03-3326-1202)

へご連絡ください。これまで観察処分を5回更新させてきた最も大きな要因は、全国にあるひかりの輪・アレフ施設の地元住民の「オウム真理教はいらない」「観察処分は必要」の声でした。一人ひとりの声を直接国に聞いてもらうことはできませんが、署名は多ければ多いほど、その熱意は国に伝わります。今回の目標は40,000筆ですが、住民の皆さまのご協力がなければ到底実現不可能な数字です。地域のお祭りやイベント会場でも署名活動を行ないますので、見かけましたら、声を掛けていただきご協力をお願いいたします。署名の期間は9月末日となりますので、それまで烏山地域を観察処分期間更新署名一色にし、おおいに風を吹かせましょう。

住民協議会活動報告

3月19日(日) 「地下鉄サリン事件から22年のつどい」参加
3月21日(火) 実行委員会
3月25日(土) 足立区抗議デモ参加
3月27日(月) 編集委員会 協議会ニュース164号初校
4月1日(土) リサイクルバザー物品受付
4月2日(日) リサイクルバザー物品受付

4月3日(月) 編集委員会 協議会ニュース再校正
4月4日(火) リサイクルバザー物品受付
4月5日(水) リサイクルバザー物品受付
4月6日(木) リサイクルバザー物品受付
4月7日(金) リサイクルバザー前日準備
4月8日(土) 住民協議会リサイクルバザー
4月11日(火) 協議会ニュース164号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。